

校内職員研修会を振り返る

平成25年11月22日

1 研修日時 平成25年11月18日（月） 午後3時50分から午後4時45まで

2 研修場所 本校図書館

3 研修の目的

組織的・体系的な学習指導の取組を進めることができるよう、職員の共通理解と連携を深めるための研修を行う。生徒の授業への取組方、我々教師の教え方について、振り返り、お互いに話し合う場とすることにより、教師の授業力の向上につなげる研修とする。

4 研修の対象 全職員

5 参加職員 46名

6 準備

年齢や教科等のバランスを考慮し、あらかじめ8つのグループに分けておく。
各グループに必ず、若手職員研修チーム職員が入り、進行役及び書記を務める。
あらかじめ各グループの進行役を集め、研修の趣旨、進行方法の説明をおこなう。

7 展開 進行（若手教員研修チーム）

(1) 概要説明（2分）

(2) 導入「ストレス解消法について」（8分）

ア ワークシートに記入

イ 一人ずつグループ内で発表

ウ 全体に向けて、数名が発表

(3) 授業していて感じる課題（8分）

ア ワークシートに記

イ 数名が発表

ウ 一人ずつグループ内で発表

(4) 課題解決について（30分）

ア 話し合い

グループで出された課題について、どのように解決できるかを意見交換
出された課題に優先順位をつけて話し合い

イ 発表してもらう

各グループ代表が、課題と話し合った解決策を発表

(5) 講評（3分）

(6) アンケート記入（4分）

8 研修の実際

(本校ホームページより)

2013/11/18 職員研修

午後3時50分から、職員研修会がおこなわれました。テーマは「学習指導」についてです。研修の進行は、若手教員研修チームの2人に任せましたが、とてもうまく進行していたと感じます。昼休みに班長を集め、ミーティングをするなど、しっかりとした準備をしていたからでしょうね。

「授業をしていて感じる課題」を考え、発表しあい、その解決策について話し合ってもらいました。毎回思うことですが、本当に皆、真剣に取り組んでくれます。私は、いつも、この何ともいえない雰囲気「いいなあ」と思いながら、耳を傾けています。使用したワークシートを回収し、みていますが、ぎっしりと記入されています。多くの職員が、裏面もメモをとるなどして、たくさんの文字が並んでいます。

話し合われたことや感想等をフィードバックして、はじめて研修会が意味のあるものになると考えます。まとめ次第、ホームページにも掲載したいと思います。

実施要項 配付資料 ワークシート



9 参加職員の感想

- ・ストレス解消になった。
- ・多くの職員の共通の悩みについて、話し合いができてよかった。
- ・いろいろな職員の意見を聞くことができてよかった。
- ・同じ生徒集団を自分以外の職員がどのようにみているのか、意見が聞けてよかった。
- ・生徒の現状を話し合うことで、他の職員も同様に感じているんだと確認できた。やる気をもたせる授業内容・展開の工夫の必要性をあらためて感じた。
- ・忙しい中での研修で、じっくり話し合う時間はとれなかったが、こうした時間をもち研

修をおこなうことが大切であると再認識した。もっともっと普段話す機会のない職員と話してみたい。

- ・他教科の職員と、仕事のことで話し合う機会があまりないので、今日の研修はとても貴重で有意義だった。若手職員が先頭に立って仕切ってくれるようすがさわやかで好感がもてた、ベテラン（わたしもちょっとだけベテランだが）も負けずに頑張ろうという気持ちになった。
- ・他教科、他学年職員の意見が聞けてよかった。特に、体育で怪我の多い話から、身体が弱い、食育の大切さの話。家庭での教育が不足しているなかで、栄養についてしっかりと伝える大切さを再確認した。他の職員も自分と同じような課題をもっているのも、お互いに情報交換したり相談したりしながら授業をすすめていきたい。
- ・自分一人だけでなく、他の職員も同じような悩みや課題をもっていることがわかった。それにより、もっと相談や報告をして課題を共有したら、何か効果があるかとも思えた。とにかく本校の生徒の実態に合わせたやり方で、しっかりと教えていけるように努めたい。
- ・いろいろな教科、学年の職員の話聞くことができ、勉強になった。他の職員も同じような課題を抱えているようなので、協力して解決できると、よりよい学校になると感じた。
- ・自分のスタイルをしっかりもち、ぶれないようにしていきたいと思った。他の職員の授業のようすなどを聴くことができよかった。研修のたびに他の職員と話ができ、距離が縮まるような気がする。
- ・他教科、経験年数の長い職員、短い職員、いろいろな方の「課題」を聞き、「あのようなベテランでプロの方でも・・・」と驚くと同時に、少しホッとした。教育は奥が深い。課題解決の話し合いは、大変勉強になった。
- ・寝てしまう生徒、応用が利かない生徒など、授業での課題は、自分一人だけでなく、職員皆が感じる課題だとわかったので、今後、他教科の職員とも相談したり、生徒の学習状況等の情報共有は、とても大切なことだと思った。
- ・教科を越え、普段、相談することのない先輩方から、貴重な意見を聞き、とても意味のある実りのある研修会だった。学校の基本という立場に立って、授業は、寝ない、話さない、集中するという3つの柱を、日ごろからきちっとしていかなければいけなんだと、再認識できた。教材研究を含め、生徒指導・学習指導をさらに磨き、向上していきたいと思う。・教科や学年、年齢を超えた職員の連携が必要だと感じた。いろいろな家庭環境の生徒がいる。一人一人の生徒をよくみていくことが大切である。
- ・難しい課題で、解決策はすぐには思い浮かばなかった。先輩職員の方々の課題を聞けてよかった。
- ・他の職員が感じていることを共有できた。授業環境の整備が不足していることに気づいた。
- ・自らの反省の時間となった。できることから一步一步やっていく。
- ・生徒が寝ること 授業に興味関心がない。 教員の力量。 わかることの大切さ。

- ・教員の姿をみせる。
- ・生徒の意欲や意識を高めないといけない。
- ・グループ化の方法がいくつかあると思う。
- ・グループで話し合う時間が多くとれたので、交流の意味も含めてよいものになったと思う。
- ・日ごろのことについて、耳が痛い話だった。
- ・耳の痛いことばかりだった。妥協したり、回避したり、いっぱいやっている。「子どもが好き」ならば、やるべきことは別だった。目をそらさぬようにする。ありがたい研修だった。
- ・生徒の個々に対応できる時間を、授業中につくれるとよいと思った。できる生徒はひまだし、できない生徒はつまらないし……。一つ一つの指導を日々大切にすることができる学校でありたい。
- ・先輩職員の視野の広さを感じ、とても勉強になった。
- ・「授業」について考えさせられた。我流だと考えが深まらないのだな、と。先輩職員の意見は、観点が違ってとても参考になった。
- ・やはり教員の知識の袋は大きく、中身もぎっしり詰まっている方がよいと思った。知識とコミュニケーションが一番である。それを強く感じた。
- ・校外研修等でネタを集め、「これはおもしろい」と思ったものは授業で扱っているが、生徒の反応はイマイチで、「学習意欲のない生徒にはわからないのか」と思っていたが、生徒に愛情をかけていない自分に気づかされた。
- ・教員、特に高等学校は授業が最も大切であり、生徒を理解させるための工夫、また、考えていることが、どの教科にもあるのだと感じた。基本的には、授業環境を担当、教科担当で毎日丁寧に継続していくことが大切であり、その上で、授業内容の理解につながるのではと思う。
- ・授業はきわめて大事なので、授業中の問題は、学習面にしても生活面にしても、取り上げて考える機会が多い方がよい。
- ・高等学校の学習内容は、日常生活とはなれたものが多いと思うので、簡単に興味を持たせる工夫をすることはむずかしいと思う。しかし、その切り口を考えるためには、授業以外でも接点をもつことが大切だと感じる。
- ・授業の中で、生徒に発言させることは、とても大切なことだと思う。生徒にほどよい緊張感をもたせることは、授業のメリハリをつけるために必要だと考える。